【高等学校用】
令和6年度学校評価 計画

学校名	佐賀県立伊万里高等学校

1 前年度評価結果の概要

・進路指導をとおして目標や目的意識を持たせることで学習意欲を高めさせたい。
・特に、1年次から家庭学習時間を確保させるためには学習に対する意識付けや目標を持たせることが大切である。
・教職員の働き方改革については、現状の把握をもとに、業務のスリム化や業務の分担の最適化を進める必要がある。
・普通科改革（新学科立ち上げ）の準備を進めるとともに、地域の期待に対しさらに応える学校づくりを推進する。

2 SAGA ｽｸｰﾙ・ﾐｯｼｮﾝ 学校教育目標

・普通科改革を推進し、高い志を持つ生徒を県内外から呼び込み、学校の新たな魅力づくりに挑戦する。
・教科学習に加え、地域との連携のもと多様な学びに挑戦することで、地域の期待に応え、社会に貢献できる有為な人材を育成する。
「　伊高に集い　伊高で学ぶ　伊高は君が主役　」　　志高く、謙虚に学び、情熱に満ち、最後まであきらめない

達成度（評価）
Ａ：十分達成できている
Ｂ：おおむね達成できている
Ｃ：やや不十分である
Ｄ：不十分である

3 スクール・ポリシー

アドミッション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	グラデュエーション・ポリシー
ア 理想を高く掲げ、上級学校への進学を目指して自ら学ぶ意欲をもつ生徒を求める。 イ 心身ともにたくましく、文化の創造や産業の振興など、社会や地域に貢献する気概と情熱に満ちた生徒を求める。 ウ 学校の核として積極的に活動することができ、部活動等に積極的に取り組もうとする意欲と能力のある生徒を求める。	ア 魅力ある授業を実践し、教科への興味関心を高め自ら学ぶ姿勢を養成する。 イ 主体的に学ぶ態度や思考力・表現力・判断力の育成を重視する。 ウ 総合的な探究の時間、ホームルーム活動を通して、生徒自身が主体的に考え、行動し、将来望ましい自己実現ができるようにキャリア教育を推進する。 エ すべての教育活動を通して、人権・同和教育に対する正しい知識や人権感覚を身につけ、あらゆる差別・いじめが起こらないように積極的に取り組む。	ア 自然を尊び郷土を愛し、人としての優しさに満ちた豊かな人間性と、自らの生き方に向けてよりよく生きる自主自律の精神を育成する。（自律） イ 個性と創造性を伸ばす個に応じた教育を進めるとともに、高い志を持ち、自ら判断する力、自ら学ぶ力と学んだことをもとに発信する力を育成する。（創造） ウ 互いの存在を認め合い敬意をもって接し、皆が安心して過ごせるような配慮や気づきのできる人材を育成する。（友愛）

4 本年度の重点目標

地域の期待に応えることのできる普通科進学校を目指す。
① 志を高める教育　② 学力の向上と進路保障
③ 自己有用感の育成　④ 地元との連携強化
の4つの観点で魅力ある唯一無二の誇り高き学校作りを目指す。

●･･･県共通　○･･･学校独自　◎･･･志を高める教育　★･･･唯一無二の誇り高き学校づくり

5 重点取組内容・成果指標

（1）共通評価項目

評価項目	重点取組 取組内容	重点取組 成果指標（数値目標）	具体的取組	中間評価 進捗度（評価）	中間評価 進捗状況と見通し	最終評価 達成度（評価）	最終評価 実施結果	学校関係者評価 評価	学校関係者評価 意見や提言	主な担当者（案）
●学力の向上	○魅力ある授業を実践し、教科への興味関心を高め自ら学ぶ姿勢を養成する。 ○思考力、判断力、表現力を身につけさせる。 ○少人数指導等を通じて基礎学力の定着を図る。	○学校評価アンケートにおいて、「あなたは伊万里高校の授業に満足している・どちらかというと満足している」と回答した生徒80%以上	・各学期末の授業評価アンケートにおいて生徒の意見やニーズを把握し、授業や課題の出し方に活用する。 ・授業と連動した効果的な課題の提示 ・家庭学習時間の増加につながる指導の研究		・		・		・	教務部
	○授業時間の確保に努めるとともに、家庭における予習・復習の大切さを理解させ、積極的な学習態度を育成する。	○生徒の学習習慣の確立（学年＋１時間の家庭学習時間の確保）	・文理選択やコース選択などの機会を用いて進路意識を高め、進路希望とそのために必要な学習の意識を高める。 ・各生徒の志望進路に応じた長期的・計画的な指導の工夫		・		・		・	教務部
	○朝の時間を活用し、情緒の涵養と心の豊かさや視野の広がりを育成し、静かで落ち着いた学習環境をつくる。	○学校評価アンケートにおいて、「あなたは伊万里高校の授業に満足している・どちらかというと満足している」と回答した生徒80%以上	・5分前行動を意識させ、朝活動・授業準備を早めに終わらせるとともに落ち着いた雰囲気で始めることを定着させる。 ・週初めの朝活動は学習時間の記録や、学習内容を振り返る時間に充て、週ごとの計画を明確化させる。 ・教材研究や生徒支援の時間を確保するための業務の効率化		・		・		・	1年学年 2年学年 3年学年
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学校アンケートにおいて、「あなたは充実した学校生活を送っている」と回答した生徒が80%以上	・全校集会・学年集会・始業式・終業式等で、豊かな心を身に付ける講話を実施 ・各クラスで適宜、社会性や倫理観を育むような指導の実施 ・HR活動の時間を使った人権同和教育の実施		・		・		・	生徒指導部
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ解消率100%	・少なくとも3回/年はアンケートを実施し、いじめの積極的な認知と、解決に向けた迅速な支援を行う。 ・面談週間等を通じて生徒の悩みの早期発見に努める。 ・学年団との定期的な情報交換(週一回)		・		・		・	生徒指導部 教育相談
	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に良い食事をしている」生徒 85 %以上 ●「毎朝朝食を食べてくる」生徒90%以上	・生活状況調査、食に関する意識調査の実施 ・食育に関する通信の発行		・		・		・	保健厚生部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	（県下共通） ●業務効率化の推進と、時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○時間外勤務を昨年度比で１０%以上削減する。	・定時退勤日、および学校閉庁日の設定 ・部活動休養日の設定 ・休暇（年次休暇等）取得促進の呼びかけ		・		・		・	教頭
●特別支援教育の充実	（※R6学校要覧原稿より） ○生徒の発達段階に応じて、好ましい人間関係を育てる。 ○自己理解を深めさせることで人格の成長の援助を図る。 ○生徒一人ひとりの教育上の課題について職員間の共通理解を図り、支援が必要な場合はあらゆる機会をとらえ実践する。	○スクールカウンセラーの活用を積極的に行う。 ○学年団との連携を密にして生徒や先生方のカウンセリングを促進する。	・スクールカウンセラーのカウンセリングを生徒や先生方に推奨する。先生方の指導へのアドバイスや適格なサポートができるように、学校全体の連携を図る。		・		・		・	保健厚生部

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

評価項目	重点取組 重点取組内容	重点取組 成果指標（数値目標）	具体的取組	中間評価 進捗度（評価）	中間評価 進捗状況と見通し	最終評価 達成度（評価）	最終評価 実施結果	学校関係者評価 評価	学校関係者評価 意見や提言	主な担当者（案）
★唯一無二の誇り高き学校づくり	★「SAGAスマート・ラーニング」事業を推進し、ふるさとの自然と文化に親しむことで、ふるさとへの誇りと愛情を培い、佐賀を誇りに思う教育を推進する。	○SAGAスマートラーニング事業のアンケートにおいて、満足度70%以上を目指す。	・カブトガニ産卵地清掃活動に取り組み、ふるさとの自然に親しむ。 ・総合的な探究活動において，故郷の自然や文化について学ぶ。 ・伊万里学講演会で伊万里の焼き物やカブトガニ等について学ぶ。 ・校外学習体験発表会でふるさと再発見の探究活動の学びを発表する。		・		・		・	総務部
	★◎キャリア教育の充実 ・総合的な探究の時間、ホームルーム活動を通して、生徒自身が主体的に考え行動し将来、望ましい自己実現ができるようにキャリア教育を推進する。	○キャリア教育に関するアンケートにおいて、満足度70%以上を目指す。	・職業セミナーを開催し、適性や能力・資質を学ぶ。 ・大学ジョイントセミナーを開催し、自己の在り方・生き方と結び付けたテーマや学問を発見する。 ・自己の在り方・生き方に直結する学問・学科について、志望動機や課題解決の方法を記述する。		・		・		・	総務部
	★◎進路保障、進路指導の充実 ・個人面談や進路意識を高める希望調査、オープンキャンパス参加の奨励、進路講演会等を実施して生徒の進路意識を高めることで明確な目標を持たせ、その実現のために努力させる。	○オープンキャンパス参加率を1年生までに40%、2年生までに80%以上を目指す。 ○進路講演会と職員研修を企画する。 ○模試分析会を2回以上実施する。	・オープンキャンパスに参加する前の学年での指導計画の作成 ・講演会講師の選定と日程調整 ・8月末に7月進研模試の分析会、3年生の年3回の進路検討会の企画		・		・		・	進路指導部

6 総合評価・次年度への展望

・
・
・